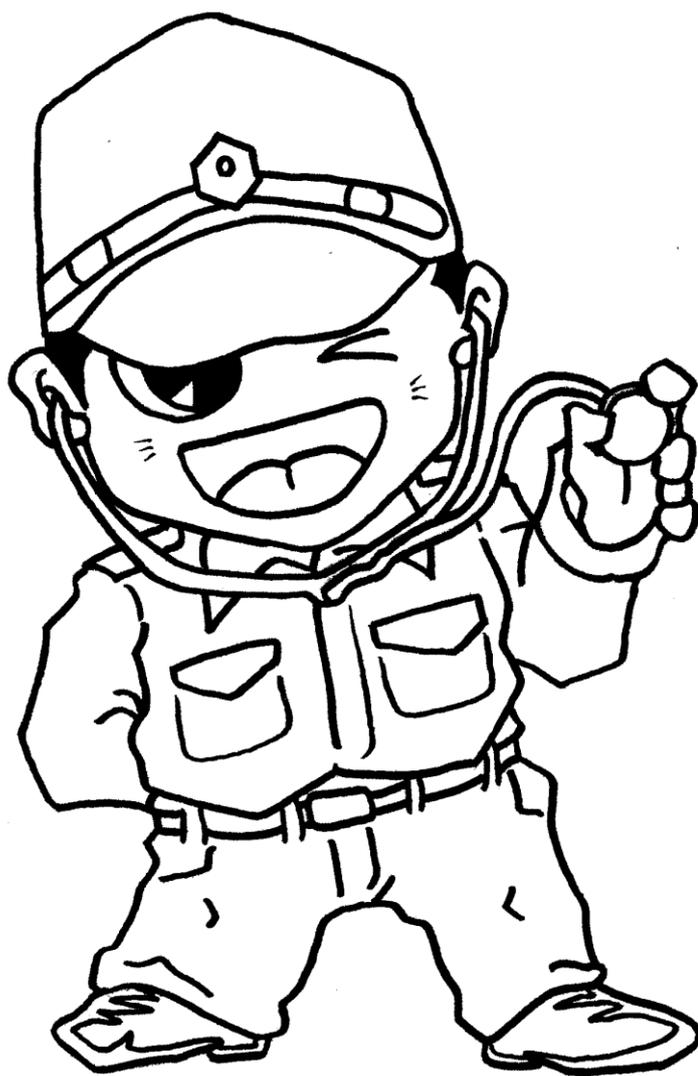


救急・救助統計



救 急 救 助 統 計

救急出動件数

平成 29 年中の救急出動件数は 6,715 件（1 日平均の出動件数は 18.4 件）で、前年と比べ 239 件（3.7%）の増加となりました。事故種別の内訳は、急病が 4,394 件（65.4%）と最も多く、次いで一般負傷が 795 件（11.8%）、交通事故が 687 件（10.2%）の順となっています。救急搬送人員は 6,284 人で、前年と比べ 143 人（2.3%）の増加となりました。年齢区分から見ると、65 歳以上の救急搬送人員が 3,481 人で、前年と比べ 177 人増加しました。これは救急搬送人員全体の 55.4%であり、半数以上を占めています。

バイスタンダー（その場に居合わせた者）の重要性

突然倒れた傷病者の命を救い、社会復帰に導くためには「救命の連鎖」が必要不可欠です。この「救命の連鎖」は、①心停止の予防②心停止の早期認識と通報③一次救命処置（心肺蘇生と A E D）④二次救命処置と心拍再開後の集中治療という四つの輪（鎖）から成り立っており、バイスタンダー、救急隊、そして医師や看護師が連携することにより救命効果が高まります。

平成 29 年中に救急隊が搬送した心肺機能停止（心臓及び呼吸が止まった状態）傷病者 154 人のうち、バイスタンダーによる心肺蘇生が行われたのは 106 人で、このうち 9 人の方が社会復帰されました。突然の心肺機能停止傷病者には、バイスタンダーによる早期通報と心肺蘇生がなされ、迅速に除細動が行われることが社会復帰に繋がると考えられます。

本市では「普通救命講習会」を毎月 19 日と第 2 日曜日に定期開催するとともに、会社、町内会、各種団体からの要望に対しても随時受け付けており、広く一般市民の方々に心肺蘇生法や A E D の使用方法を分かりやすく指導しています。この講習会以外にも、短時間で受講可能な「救命入門コース」があり、応急手当の普及に取り組んでいます。

救助件数

平成 29 年中の救助出動件数は 99 件（1 ヶ月平均 8.3 件）となり、前年と比べ 26 件の増加となりました。

事故種別の内訳は、交通事故 45 件（45.5%）、建物等による事故 34 件（34.4%）、その他の事故 14 件（14.1%）、機械による事故 3 件（3.0%）、ガス及び酸欠事故 2 件（2.0%）、水難事故 1 件（1.0%）となりました。

また、救助人員については前年と比べ 24 人増加の 65 人となりました。